

# 意識的なネタバレは作品の面白さを損なうのか？

## —短編小説を用いた実験的研究—

○上市秀雄<sup>1</sup>・丸子さくら<sup>2</sup>（非会員）

<sup>1</sup>筑波大学システム情報系・<sup>2</sup>株式会社セルム

Key Words : ネタバレ, 機会費用, 面白さ



ueichi@sk.tsukuba.ac.jp

### 背景

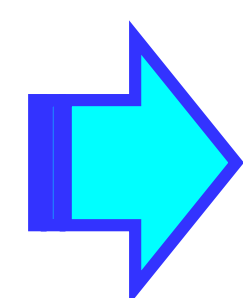
- ◆世の中には無数の物語作品であふれている。しかし全作品を読むことはできない。
- ◆**選択後悔（上市, 2022）**（この作品を読んだのは時間の無駄だった。別の作品を選べばよかった）や,
- ◆**機会費用**（他の選択肢から得られたであろう利益）を少なくするために,
- ◆あらすじやレビューだけでなく, 時には意識的にネタバレを含むレビューを読んでから, 実際に読む作品を選択することもある。
- ◆**物語作品の面白さを規定する要因**
  - 物語作品の面白さは, 結末や結末までの道筋が分からずに物語が展開される不確実性（Zillmann, 1983; Zillmann et al., 1975）にある。
  - 不確実性から生じる緊張感は, 面白さの強い決定要因でもある（Brewer & Lichtenstein, 1980）。
- ◆**ネタバレ（Spoiler : ストーリー展開や結末の情報を作品の体験する前に知ること）に関する先行研究の対立**
  - ネタバレは, **不確実性を減少させるため, 面白さも減少**（Rosenbaum & Johnson, 2016）。
  - ネタバレを知ること, **物語のわかりやすさ**（処理流暢性; Reber et al., 2004）**が増加するため, 面白さも増加**（Leavitt & Christenfeld, 2011; 2013）。

#### ◆ネタバレ選好と関連する要因

- 選択後悔（上市, 2022）：“別の作品を選べばよかった”
- 機会費用：他の選択肢から得られたであろう利益

#### ◆作品評価と関連する要因

- 選択できる作品数



◆選択後悔や機会費用を少なくしたいという意識が働き, 作品の面白さ等を判断するために, ネタバレが選ばれやすくなるかも

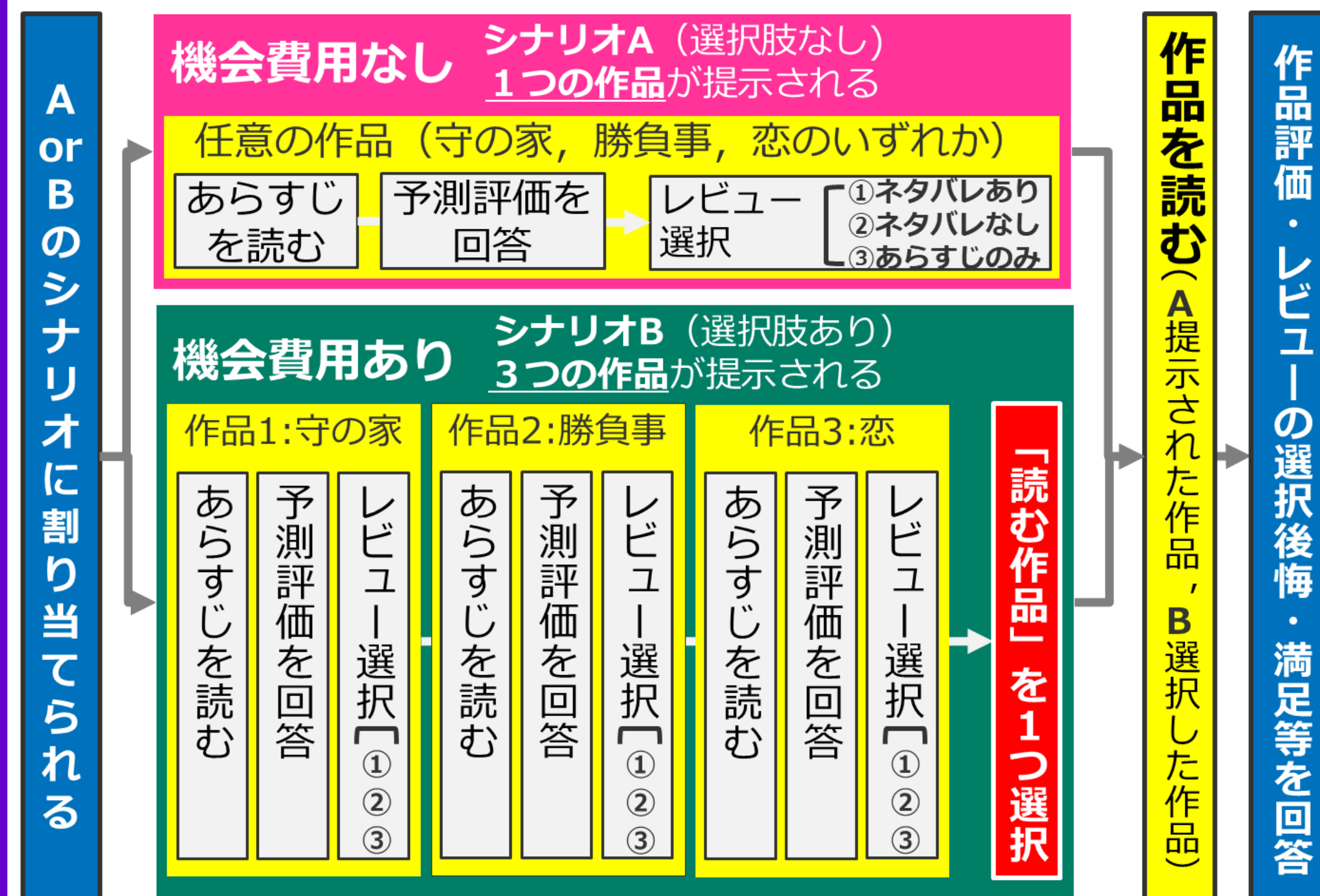
◆特定の作品を読む場合よりも, 複数作品から一つを選んで読む場合のほうが, 選ぼうと思っている作品に対する期待（面白さ等）や読後の評価等が高いかも

### 目的

- 仮説1 : 自由意思でネタバレ選好ができる状況においては, ネタバレ選好は作品評価, 選択後悔等に影響しない。
- 仮説2-1 : 機会費用あり（3作品から1つを選択）の方が, 機会費用なしよりも, ネタバレありレビューが選ばれやすい。
- 仮説2-2 : 機会費用ありの方が, 機会費用なしよりも, 予測評価（面白さ）や読後評価が高い。

### 方法

#### ◆実験手順



|              | 項目（一部） | 質問文                                                   |
|--------------|--------|-------------------------------------------------------|
| 予測評価         | 面白さ予測  | この作品は面白そうだ。                                           |
|              | 退屈さ予測  | この作品は退屈そうだ。                                           |
|              | 推薦予測   | この作品を他者に薦めたい。                                         |
|              | 読書意欲   | この作品を読んでみたい。                                          |
| レビュー選択<br>選好 | ネタバレ   | 作品のレビュー文章の一つ読む（あるいは読まない）ことができます。以下の中から一つ選んでください。      |
|              | 選好     | ①ネタバレありレビューを読む<br>②ネタバレなしレビューを読む<br>③あらすじのみ（レビュー読まない） |
| 作品評価         | 面白さ    | この作品は面白かった。                                           |
|              | 退屈さ    | この作品は退屈だった。                                           |
|              | 没入感    | 読書中, この作品に入り込んでいた                                     |
|              | 選択後悔   | ネタバレが含まれているレビューを読んだことを後悔している。                         |

#### □作品の選定基準（青空文庫）

- 作品1：守の家（伊藤左千夫：思い出）
- 作品2：勝負事（菊池寛：人情譚）
- 作品3：恋（渡辺温：ラブストーリー）
- 2012-2022のランキング外の作品（4000字程度, 7~10分で読了）
- いずれも登場人物が少なく, 主人公に注意が向けられやすい構成。

#### □あらすじ・レビュー文章の作成基準

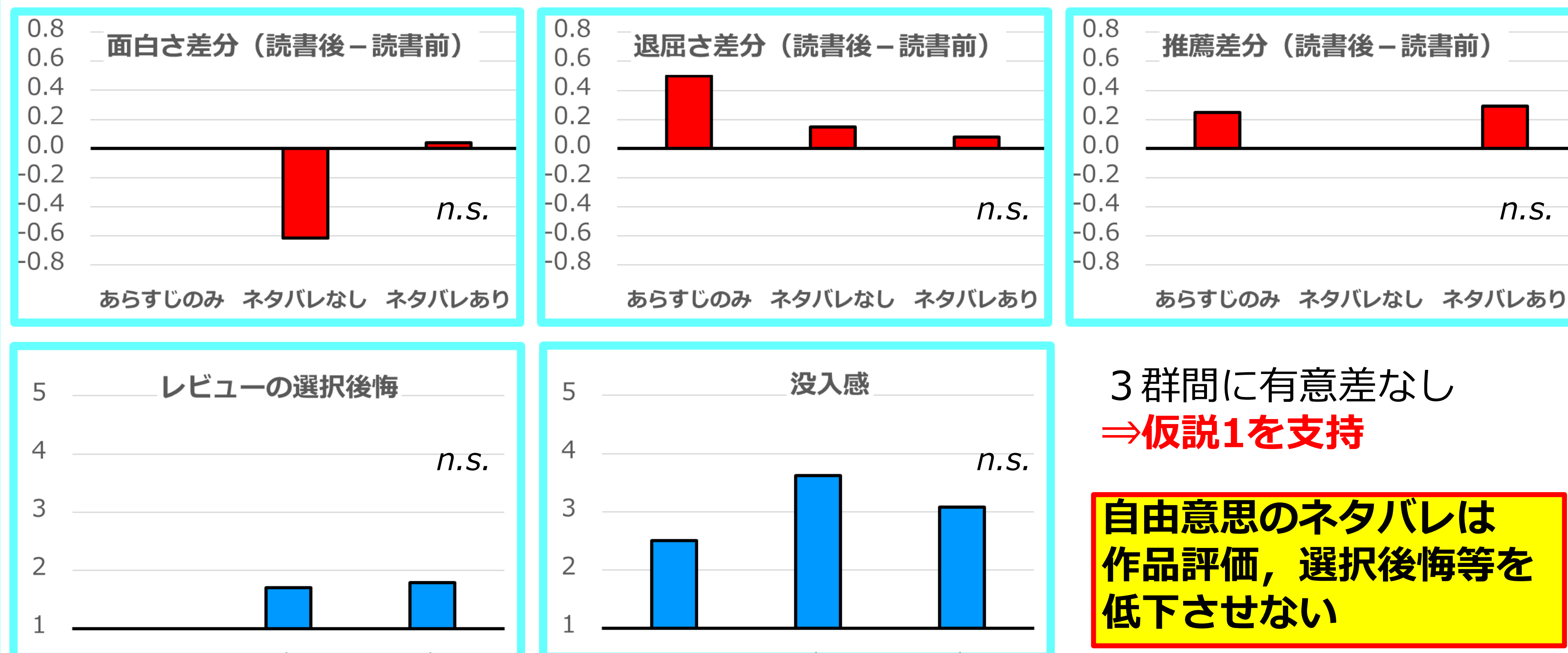
- あらすじ（文字数は166文字から199文字）
  - ・起承転結のうち起承転を含む内容
  - ・概要を理解できるように構成
  - ・主要な登場人物を紹介
- レビュー（文字数は100文字程度）
  - ・ポジティブな印象を与えるよう配慮。
  - ・ネタバレなしレビュー：起承転+α
  - ・ネタバレありレビュー：起承転+結末

#### □実験手続き（Google form, 2024年11月頃実施）

- 有効回答者41名（男性16名, 女性25名）

### 結果

#### ◆結果1（仮説1）：ネタバレ選好と作品の面白さ等との関連性（分散分析）



3群間に有意差なし  
⇒**仮説1を支持**

**自由意思のネタバレは作品評価, 選択後悔等を低下させない**

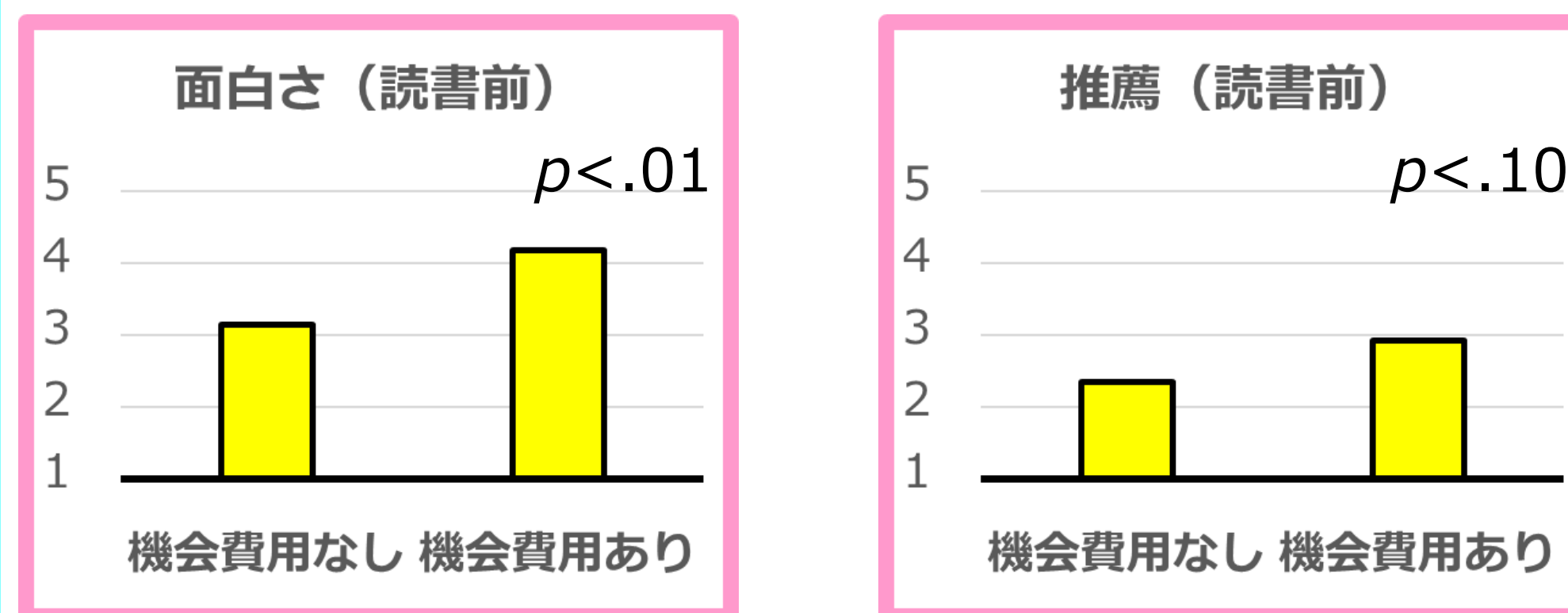
#### ◆結果2-1（仮説2-1）：機会費用とネタバレ選好との関連性（χ<sup>2</sup>検定）

|        | シナリオA<br>（機会費用なし） | シナリオB<br>（機会費用あり） |
|--------|-------------------|-------------------|
| レビュー選択 |                   |                   |
| あらすじのみ | 4                 | 0                 |
| ネタバレなし | 7                 | 6                 |
| ネタバレあり | 18                | 6                 |

有意な関連性なし  
⇒**仮説2-1は不支持**

**ただし, ネタバレありを  
選好する傾向はありそう**

#### ◆結果2-2（仮説2-2）：機会費用と予測評価, 作品評価等との関連性（t検定）



一部要因に有意差あり  
⇒**仮説2-2をやや支持**

**機会費用ありは, 予測評価, 作品評価等を  
高める可能性あり**

### 結論

- ◆**ネタバレは作品の面白さ等にあまり影響しない**（Brookes et al (2024)を支持）
  - 自由意思でネタバレを選択できる場合, 心構えができるので, ネタバレを受容しやすい。
  - ネタバレは物語の展開（不確実性; e.g., Zillmann, 1983）を低下させるが, 物語のわかりやすさ（処理流暢性; Reber et al., 2004）も増加する。それらがネタバレによる面白さ等の低下を相殺させている。
- ◆**機会費用は作品の面白さと関連する可能性がある**
  - 機会費用ありは, 3作品を比較し気に入った作品を選択できるため, 作品評価等は高くなる
  - 多数の選択肢（サブスク等）がある場合, 後悔や機会費用を避ける意識が高まることから予想されるため, ネタバレを選好する可能性は高いかも。

### 引用文献

上市秀雄（2022）．後悔を活かす心理学. 中公新書  
Brookes, S., Rosenbaum, J., & Ellithorpe, M. (2024).  
Spoilers as Self-Protection. *International Journal of Communication*, 18, 1745-1765.